

田 中 一 (たなか はじめ)

荒木正治

(参議院建設委員会専門員)

明治34年(1901)青森県弘前市に生る。明治39年上京、横浜、東京で少年時代を過ごす。長じてキリスト教社会主義運動に共鳴し、青森、東京、大阪で実践活動に入る。昭和7年「土木建築資料新聞」を創刊、昭和10年月刊「建築知識」を発刊、その後数多くの建設関係図書の出版を行う。戦後日本社会党の結成に参加し、昭和25年参議院全国区議員(日本社会党)に当選し、昭和49年まで4期参議院議員として活躍する。その間、参議院の建設常任委員として、戦後の建設関係諸法案の審議にあたり、実務に精通した立場からの鋭い論及には政府側も一目を置かざるをえなく、絶えず建設委員会の審議をリードした。また、参議院の決算、通信、建設の各常任委員長を歴任し、昭和49年参議院より永年勤続議員の表彰を受けた。国政に多大の貢献をし、昭和53年に勲二等旭日重光章を授けられた。

通称ピンさんの愛称で親まれ、建設業界、建築界、官界、政界に交友が多く、社会党離れをした幅広い行動には定評があった。昭和27年には、住宅問題の解決をめざして日本住宅協会を設立し、住宅に対する国民運動の推進にあたった。更に、昭和39年に「平和国土計画会議」



を設立して、平和な国土づくりに努め、欧米の新都市建設や建築業務、労働事情の紹介等にあたった。一方、建築、建設関係ジャーナリストとしても、昭和40年日刊建設通信新社の会長となり、また、昭和38年に月刊「建築知識」を復刊する等、参議院議員退職後も幅広く活躍した。終生、社会的所産としての建築の在り方を追求し、わが国の建設業界、建築界の発展に尽くした。平成元年4月2日死去、享年87才であった。

このような履歴が示すように、勤労者の住宅問題、戦後の都市の復興に情熱を注ぎ、とりわけ、都市の不燃化促進、市街地の改造、都心の再開発等に尽力し、国会においても、政府と激しい論争を展開している。戦後間もなく制定された耐火建築物促進法に基づく防災街区造成事業や市街地改造法に基づく市街地再開発事業の促進に努め、東京新橋駅前の市街地改造を成功させた。また、都市の景観や形態規制について一言を有し、東京丸の内の東京海上ビル建築問題について、政府に二度にわたり質問書を提出し、政治的な干渉の不当性を指摘したことは有名である。更に高度利用地区を導入した都市再開発法や全面的に容積率を採用した建築基準法改正法の国会審議にあたって、浅田孝、郭茂林、山田正男、脇坂忠良、大河原春雄等の著名な建築、都市計画の専門家を国会に招き意見を聴取する等常に実務にたずさわる者の意見を尊重する立場をとった。